

東京保健生活協同組合 第76回通常総代会 議案

●2026年6月20日(土)14時～ ●全電通労働会館 東京都千代田区神田駿河台3-6



ダイジェスト版

第1号議案 2025年度 ふりかえり

東京健生病院の土地売却、旧老健ひかわした施設の有床診療所等への転換のために建設委員会を中心に準備をすすめた。大泉生協病院3階の地域包括医療病棟への転換を実施。

VISION 1 健康づくり・まちづくり

1 班・支部を中心とした「つながりづくり」

- ①公共施設や診療所を活用した班会・保健講座を通じて、未加入者を含む地域住民との交流が広がった。
- ②組合員以外も参加できる「開かれた班会」により、新たな仲間が増えた。
- ③班会マップや一覧表、公式LINE、ホームページを活用し、活動の可視化と新規加入をすすめる案内を作成し活用した。



まち探検(新宿)

2 多彩な活動で「地域まるごと健康づくり」をめざし『予防』活動をすすめます

- ①認知症や「生協10の基本ケア」「ACP(人生会議)」の学習会を開催した。
- ②保健学校は「認知症と難聴の関連」を共通テーマに保健学校を開催した。
- ③健康チャレンジの実施者数は775人。体力チェックは4年目となり、項目別「ワンポイントアドバイスシート」が作成された。
- ④管理栄養士による連続講座は動画配信した。
- ⑤生協だよりで健診の啓発する記事の掲載や地域訪問で健診の宣伝を実施。独自で送迎対応の事業所もある。
- ⑥HPH血圧手帳が完成し活用
- ⑦熱中症対策のリーフレットを作成し、エアコン購入助成をしている区を掲載。
- ⑧職場での体操や腰痛対策で、腰痛軽減につながっている。
- ⑨東京健生病院「マフの会」で作成されたマフを使用して、身体拘束率の低下につながった。



蔵前保健講座

3 健康の基本となる「食」へのこだわる活動

- ①「ステップアップすこしお」を、レシピ紹介や料理教室の開催、24時間蓄尿塩分調査(76名参加)の実施などで推進した。



おしるこ会

- ②「地サボ弁当」やカフェ、芋煮会などの開催を通じ、孤立防止と多世代交流の場を提供した。
- ③地域6か所での継続的な食糧支援(フードパントリー等)を開催した。
- ④保育園・他団体と連携した離乳食・食育イベントの開催。
- ⑤2026年1月より千石にじの家の会場で「ケアスナック」がスタートした。



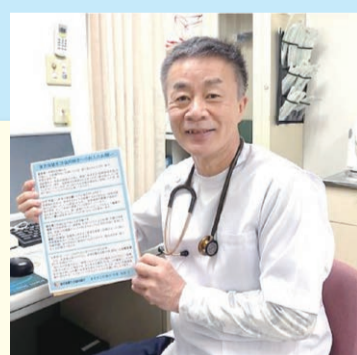
食育

VISION 2 事業継続・安定経営

1 医療・介護体制の再編と強化、利便性向上と 広報・DXの推進、職員、組合員のつながりの強化

- ①大泉生協病院は2026年1月より「地域包括医療病棟」を開始し、高齢者救急の受け入れを強化。東京健生病院は1病棟を閉鎖し3病棟体制へ移行した。
- ②2025年10月練馬区外の訪問看護ステーションを統廃合し、「ひかわした訪問看護ステーション」のサテライト事業所を4か所へ大規模化した。
- ③健診申し込みフォームの新設(東京健生病院)や、一部外来のオンライン予約を導入した。
- ④夏まつりや医療者体験、食育イベントなどで多くの職員が役割を果たした。
- ⑤生協だよりでの経営状況報告や、職員による車椅子利用者への地域マップ紹介などを実施。

- ⑥所長による直接の加入勧奨や、経営検討会や看護介護活動交流集会への組合員参加により、相互理解と組織強化を推進
- ⑦組織目標の到達状況(3月31日現在) 4課題6項目の到達状況(2025年度)



竜泉相原所長奮闘

項目	目標	到達
仲間ふやし	2000人	1155人
出資金	1億円	7,680万円
班会開催	3300回	3214回
新班	43班	17班
支部運営委員増	43人	11人
虹のかけはしさん増	100人	35人

VISION 2 事業継続・安定経営

2 地域にとけ込んだ事業所への取り組み

- ①文京ケアマネ協会会長就任や障害児ネットワークとの連携を通じ、地域の諸団体・福祉分野との関係を強化を図った。
- ②地域ニーズに応えるため、訪問リハビリの職員数を増員。
- ③訪問診療拡大プロジェクトでアンケートを実施し、利用者の意見をもとに在宅医療の改善に取り組んだが、目標に届かなかった。



クリスマス会

3 広報活動に力をいれた

- ①法人全体および千石にじの家のパンフレットを作成し活用している。
- ②広報委員会再編のもとホームページやデジタル発信を強化している。SNSの全事業所展開、スマホ対応の推進、公式LINEの活用を進めている。

4 経営改善に取り組み、3年ぶりに黒字になる見込み

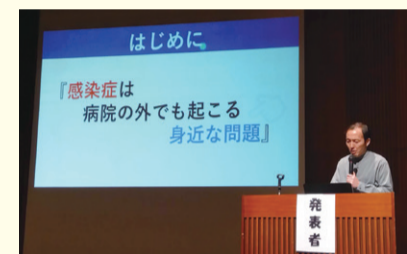
- ①予算達成には至らなかったが、在宅・入院の依頼を「積極的に守り、つなげる」職員の意識改革と実践が進展。
- ②事業所利用委員会等で経営状況を詳細に報告し、改善に向けた具体的な協議を実施。
- ③公認会計士による事業所調査を、2病院および2診療所(蔵前・鉄砲洲)にて実施。

VISION 3 ともに学ぶ・人財育成

組合員の高齢化等により期首より3,761名減少し、活動の担い手不足が深刻化。また、生協活動を学び実践する職員の育成をするための教育を行ってきたが、業務多忙により職員の実参加が厳しかった。組合員への生協学習の機会提供も不足。

【育成・学習の取り組み】

- ①「生協10の基本ケア」を全職員会議や支部で学習し、ケアの必要性を全体で共有。
- ②医療福祉生協連の「組合員の参加のあり方」提言や国際協同組合年について、職員・組合員双方が役割や価値を学習。
- ③交流と実践:管理者会議等への組合員参加を促進。他法人の事例(行田診療所)に学び、看護師の班会参加や有床診療所建設の参考とした。
- ④支部長・運営委員向けの研修を実施し、各支部での学習活動を推進。
- ⑤接遇では看護理念の実践や介護接遇の年間計画など、患者・利用者対応の質向上に事業所単位で注力。



医療・介護・組合員活動交流集会(練馬)



支部長研修会

VISION 4 平和・社会保障

1 平和な社会をめざす活動

- ①核兵器禁止条約の批准、憲法改悪反対、軍事費拡大抑制など、平和を守るための多様な署名に取り組んだ。
- ②憲法集会に73名参加。KPP主催の「憲法カフェ」への参加、戦争体験を語り継ぐ会など、学びと記憶の継承を行なった。
- ③東友会・東京都生協連主催の「被爆80年広島・長崎ピースツアー」に職員4名、組合員1名を派遣。練馬ではピースアクションヒロシマの虹の広場を視聴した。



憲法集会

2 社会保障を守り充実させる運動

- ①法人内6か所で食糧支援を継続。特に練馬では行政への要求運動により補助金を得ることができた。全体で地域や学生ボランティアと連携した支援が拡大している。
- ②医療機関存続を求める署名や介護保険改善の署名を生協強化月間の目標の一つとして積極的に取り組んだ。定例の街頭宣伝も9回実施した。
- ③介護報酬引き下げに伴う区への要望を伝える懇談を2回実施。
- ④健康保険証の存続を求める活動、資格確認に関する学習会を開催。
- ⑤無料低額診療(大泉生協病院10件、橋場診療所468件)の継続。外国人への対応も増えている。

3 環境を守る活動

- ①気候危機に関する講演を組合員、職員で共有した。
- ②原発ゼロを目指した放射線量測定を継続した。
- ③PFAS(有機フッ素化合物)の学習会開催と疫学調査への参加を決定した。
- ④防災体験ツアーを行い、防災チャレンジを実施。
- ⑤定期的なNO₂(二酸化窒素)測定を年2回実施した。
- ⑥他法人にも呼びかけエコチャレンジを実施し106名が参加した。



NO₂分析(練馬)

KPP憲法カフェ

第2号議案 2026年度方針(案)

1・在宅医療の抜本強化、2・入院・在宅のシームレスな支援、
3・人材活用と業務の効率化、4・組合員と職員によるまちづくり

VISION 1 健康づくり・まちづくり

① 医療・介護事業とともに地域の健康づくりとまちづくりに貢献する予防活動を前進させます

- ①保健講座や健康チャレンジ、体力チェックを通じ、健康の意識を高め生活習慣の見直しなど疾病予防・フレイル予防をすすめる。
- ②自治体健診、がん検診や予防接種の受診を促進する。
- ③他団体と積極的な交流をすすめる。自治体行事への参加など自治体との連携を強化する。
- ④あらゆる機会での連携を図りながら、子どもや若い世代への健康の啓発活動をすすめる。



谷中健康チェック



西南体力チェック

③ 多彩な活動を通じて地域の人々とつながり、安心して暮らせるまちづくりをすすめます

- ①地域の要望やこまりごとにも対応できる体制を目指す。
- ②食料支援を継続する。
- ③居場所やイベントでは、参加者が役割発揮できる場としていく。
- ④組合員以外も気軽に誘える班会をさらにアピールし、多彩なイベントで新しい仲間づくりにつなげる。



保健学校



文京スクエアステップ交流会

② 「食」を通じて健康づくりと地域のつながりを作ります

- ①「おいしく・楽しく食べる」をテーマに、健康的な食習慣を支える取り組みを進める。
- ②食を介して人とのつながる企画を実施する
- ③医科歯科連携、多職種連携で医療機関と在宅の切れ目のない支援を行う。



芋煮会



文京料理教室

④ 認知症や介護について学び、一人ひとりが大切にされ、その人らしく暮らせる備えや支えあいをすすめます

- ①「生協10の基本ケア」や「ケアの倫理」の実践をすすめる。
- ②「新しい認知症観」について学ぶ。
- ③各事業所や組合員活動での実践を相互に発信し共有することで、ケアや支え合いにつなげる。



生協10の基本ケアの実践



マフの会

VISION 2 事業継続・安定経営

① 「生協ひかわしたクリニック」オープンに向けての準備を着実にすすめます

- ①コンセプトの浸透：「地域全体を療養環境と捉え、生活・健康を支える」新時代のモデルを周知。予防・バックアップ機能、在宅をキーワードとし、外来、健診、19床のベッド、透析、コミュニティスペースを保有し対応。
- ②地域住民と共に、コミュニティスペースの具体的な活用方法を検討。
- ③地域サポートセンターを「何でも相談窓口」とし、医療・介護、組合員活動へつなげ、生活課題の解決を支援する。
- ④持続可能な経営計画を策定し、2026年度中にクリニック開設時の訪問診療の予算水準にする。
- ⑤医療内容や開設時期について、職員と組合員が一体となって地域へ周知。
- ⑥東京健生病院の生協ひかわしたクリニックへのスムーズな移行を計画的に進める。

② 診療所の訪問診療拡大をすすめます

- ①文京エリアでは生協ひかわしたクリニックと介護事業の連携を軸に、地域での在宅生活を支えていく。
- ②医科・歯科・訪問看護・リハ・介護が一体となり、HPHが掲げる「健康をつくる地域ネットワーク」を形成。

VISION 2 事業継続・安定経営

③ 大泉生協病院の経営改善と在宅医療の推進

- ①「地域包括医療病棟」への転換により、高齢者救急の受け入れから在宅復帰支援までを担い、経営の安定化を図る。
- ②「大泉生協病院のミッション」を確立し、HPH理念に基づき、医療と生活支援の両面から地域貢献を深める。

④ 組合員共同による事業運営

- ①組合員が共同の運営に参画し、ともに良いまちづくりをめざす。
- ②組合員と事業所が共同して地域課題を解決していく仕組みを強化する。
- ③組合員と職員が活発に議論できる場として、事業所利用委員会の役割を明確化・活性化する。

⑤ 広報戦略の強化

- ①ホームページやSNSを活用し、医療・介護・組合員活動を発信する。
- ②加入時はもちろん、未加入者へもSNSの登録を進める。
- ③各事業所のパンフレット等を用いて営業活動を強化。



未加入者へSNSのご案内

VISION 3 とともに学ぶ・人財育成

① 生協の魅力語り、行動する人づくりをすすめます。

- ①全職員が年1回は組合員活動に参加する。組合員・職員の年1人以上の仲間ふやしに取り組む。
- ②「生協組織拡大プロジェクト」を始動し、仲間・出資金増やしの回復を研究・実践。
- ③組織部の役割を明確にし、2027年1月に組織部の名称変更を行なう。



看護介護活動交流会「班会という羅針盤」の報告

② 管理者・職責者研修の充実(3つの力)

- ①マネジメント力：予算管理や制度理解・連携・課題解決力を高めて持続可能な運営能力を育成。
- ②リーダーシップ力：多職種連携や職員育成を推進し、法人の理念を実践につなげるリーダーを育成。
- ③地域と共に育つ力：組合員活動への理解を深め、住民と学び成長し、地域包括ケアを広げるリーダーを育成。

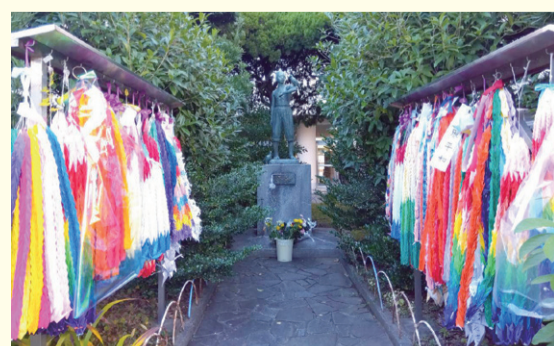
③ 在宅サービス部門の職員の確保・養成を法人の重点課題として取り組みます

- ①人財確保：学校連携や職場体験を通じ、在宅医療・介護のやりがいを発信して積極的に人材を確保につなげる。
- ②在宅専門人材の育成：同行訪問や多職種カンファレンス、研修体系的の整備により、在宅に必要な総合的判断力と連携力を育成する。
- ③働き続けられる職場づくり：業務負担の適正化やチーム体制の強化、ICT活用による効率化を図ります。更にキャリアパスの明確化や学習で成長し続けられる職場づくりをすすめる
- ④報酬改定へのとりくみをすすめる。

VISION 4 平和で公正な社会づくり

① 日本国憲法をまもり平和な社会を目指します

- ①改憲に反対し、日本国憲法を遵守するために、学習や運動を継続
- ②政府に核兵器禁止条約への参加を求め、核兵器廃絶を目指す。
- ③差別や排外主義を許さず、他団体と協力して人権が守られる社会を構築。
- ④ピースアクションinヒロシマに職員、組合員を派遣する。



長崎ピースツアー

② 社会保障を守り、充実を求める運動に広く力を合わせます

- ①医療・介護を守るため、国や地方自治体に対する要求運動を強める。
- ②地域包括支援センター等と連携し、地域の課題に取り組む。自治体の事業に参加し、一定の役割を担えるようにする。
- ③従来の健康保険証存続のために運動を行う。
- ④生活保護の権利保障や適正水準を要求し、貧困事例に積極的に介入する。
- ⑤組合員と職員で駅頭での定点宣伝や署名活動などを行う。



巣鴨署名行動

③ 環境を守る活動をすすめます

- ①気候危機の問題を組合員、職員で学ぶ。
- ②全日本民医連のPFAS疫学調査への参加
- ③防災への関心を高める学習機会を設け、地域社会へ防災意識を普及。
- ④大気汚染測定の意義を踏まえてNO₂測定を継続。
- ⑤原発ゼロを目指し、各地での放射線測定や再稼働反対署名、福島との連帯を継続。